



(上) 聖ヴァイアトール祝日(21日)荘厳ミサによる・司祭はドロー
レット神父 (下) 大運動会(19日)全校生徒による組立体操

十月十九日から二十三日迄の五日間の第七回記念祭も大きな事故もなく無事終了した。一週間足らずの間授業の後、疲れていたにもかかわらず夜遅く迄残つて練習した数々の苦勞、苦心の賜が、その日に全力を尽して発揮され、観客を満足させ、校名に恥らう事なく立派に終つた。

勿論、心となった文化祭を運営してくれた高校の執行委員会の諸君は実に立派に務めを果してくれた。しかしだからといってこの本質的な問題をそのままに放置しておいてもいいということにはならないだろう。

傍觀者的な嘲笑的な、そしてその上無責任で無反省な批判！これが洛星の生徒の特色だということならば君たちはきつと憤慨するだろう。しかし執行委員会の諸君の涙ぐましい努力にも拘らず、文化祭の殆どを全部とっているほどのプログラムにきまつていたあの下卑な洪笑と、無駄な拍手と、聞くに堪えないような野次を喜ぶ自身

残念ながら素晴らしい文化祭だつたとはいへないような、何かしこのようなの心が残つた。非常に残念ではあるがこれは少なくとも僕にとって事実なのだからどうにも仕方ない。

これは何を文化祭に眼つたことではあるまい。毎日僕が学校に来て、そして例外なしに毎日のように感じる気持、それを文化祭といわば特殊なレンズを通して、はつきりと言ひつけられただけかもしれない。

緒方登摩

「よりよい文化祭、そして
よりよい学園のために」

一体どのように感じていたのだらう。こういう場合いつも君達の間から弁解として聞くのは学校側この学校側という言葉の持つ嫌な響きを感じるだけのセンスの持たぬ君達の間にはどうもいないらしいのやり方がまづかつたからという甚だ漠然とした批判である。いつの場合でも例えば生徒の集合時間の徹底、出欠の問答等々金とはいへない難い点が多くあるかもしれないがその点は認める。そのような点で不手際のないよ

力を降したいと思ふ。しかし君達
は本質論をいつもそのような技術
的な手続上の問題とすりかえると
いう世にも見えない手品を用い
る。いつの間にか君達自身の問題
が学校の事務的な欠陥へとすりか
えられてしまつたのである。

は何か？僕の考えではそれは君達
の強次馬根性であると思つ。この
根性が直れば文化祭に対する僕の
割れない気持ちもなくなるし、僕
の不屈抱いている不満も大部分解
消するのではないかと思つ。

ところで君達一人一人に会つて
話しているときには、君達はそう
無責任でもその場限りでもないよ
うだ。しかるに一旦集団になると
奇麗にもあのサマである。一人一
人の時の君達は一体どこ姿を消す

してしまつたのか。「それは群衆心理のせいであるから仕方がない」と君達のある者は言う。しかしそんな風に割切つてしまつてよい團體だろつか。群衆というものに責任をなすりつけて涼しい顔をしているのは寧ろ知者だといわれても仕方があるまい。

の中の一人である場合にも、自分の行動に強い責任感を持つてもらいたいということである。群集にまぎこまれてはいけない。自分だけは自分の考えをしつかり保つてそれに従つて行動しようという覚悟が大切である。人がしたから自分もした、というのでは「自分」という人間はどこかへ行つてしまつてはなからう。

協力が必要

前中学執行委員長 垣田 行雄

例年にない進歩をとげた事を確信している。

くあわれむべき姿であつた。欠点
というものはだいたいある面にお
いて協力の精神が欠けていたぐら
いであり、他の面では大變よかつ
たと思つてゐる。

寺西弘教

学校の中心は生徒であるといふことは今更改めていうまでもないが、学校が教育の場である限り普通運の状態に於て先生と生徒の間に教える側と教えられる側という上下の關係が生じるのも当然のことである。しかし学園祭の如き行事に於てはいささか趣を異にすべきもので、生徒の盛り上る意欲によつてくり展げられてこそ学園祭の名にふさわしいものといえる。勿論いかに生徒のもり上る意欲によつて行われたものといえども、学園の創立精神や教育方針からはずれたものであつては学園祭といふことは出来ない。

歴史の浅い本校の過去に於ける記念祭は、一年一年経緯を重ねながら学園祭としてのスタイルを造つて来た感があるが、外観的にいって、昨年の記念祭と今年の記念祭との間にはそれほど大きな変化はなかつた、即ち外観的には既に一応定まつたものが出来ているようである。しかし今年の記念祭は昨年に比べて大きな違いが感じられた。それは生徒会の自覚の活発ぶりである。八百名の生徒の秩序を保ちながら、準備、進行から後片すけに至るまで可成りの成功をおさめたのは、一に高校執行委員の並々ならぬ努力のためのものであ

るのいうまでもないが、顧問の緒方先生との連絡の徹底が成功への大きな原因になっていると思われる。また、中学執行委員の協力も大書すべきであろう。それは裏立つたものでなく、論べて陰の仕事であつたので、多くの生徒は全く気付かなかつたであらうが、我々は陰の力の重要性をもっとよく認識しなければならぬ。

さて、生徒会の活躍が目立ちかつたと思いたが、それはみな委員についていることであつて、委員以外の生徒に関しては、一二を除いて昨年と何ら異なるところはなかつた。従つて正副にいうなら

翌日の行事を行うためには八百余のいすを移動させて掃除をしなければならなかつた一事からも明らかのように、多くの生徒にはむしろ委員の負担を大きくするような行動さえ見られたのである。勿論一般生徒の協力が絶無であつた訳ではない、現に或る生徒が陰で献身的に働いてゐたのを私は知つてゐる。この生徒が記録表中に身をまつて待たぬものは決して無意味なものではないと信ずる。

色々な用件のために断片的にしか參觀することが出来なかつた私には、個々の催場について批判する資格はないが、合唱コンクール

思うところまで打ち切つて、来年の記念祭への期待を残す方がよいのではなからうか。その点、中一から高三まで同時に参加するという条件の下では、若干の無理が生ずるのの止むを得ないが、企画に際して特に中一、中二が参加するという点に、十二分の考慮をほつらばべきであらう。

したが、来年の記念祭には一人一人が記念祭を支える力となって下さるよう希望し敢えて一言を言いたく伏す。

最後にこの紙面を借りて、記念祭に対しての先生方、職員、親友及び皆さんの御協力に深く感謝致します。

なお特に或る先輩の名はかきませんが、記念祭の前夜三回にわたつて忠告激励の手紙を下された事を皆さんにお知らせし、僕自身が何れか非常に暖いものを感じたという事を書いて終ります。

生徒会委員
寺西

の活躍
弘教

は、生徒会委員の活躍と直事すべきであらう。毎夜生徒が帰つた後の講堂内には、キヤラメル、の包紙、こま切れのプログラムや新聞紙、リンゴのしん、果てはチューインガムの包紙が、まがたに散らばつてゐる。

や球技大会などには、記念祭以外にも時々やりたいような良さがあつた。しかし中には低学年の生徒にとつて、時間的に長過ぎると思われるものがあつた。盛沢沢山に

者でも傍觀者でもなく、記念祭を
盛り上げて行く力の一つとなつて
記念祭の爲に何らかの汗を流して
そして、その上記念祭を楽しく味
わう、そこに本当の意味での記念
祭の感激があると思う。そんなこ

又何をするにしてもある決つた人々が、これもする、あれもするといふ事で、やらない人は何もやらないという事も少し反省しなくてははいけない。中には劣等感を持つていてそういう機会に出ない人がいるとするなら、記念祭成功の喜びは半減するだろう。これから何事につけて一致協力をモットーとして、洛星ボーイらしく洛星ボーイは進むべきである。これこそ我等の誇りとなるはずである。

何のたねに舞臺から傳へてはゐた。何はともあれ無事に終つたという氣持が一層強く、最後のシークレットの後の表彰式が終つて皆が帰つてしまつた講臺にぼんやりと立つてゐるような気分なので考へがまとまらない始末なのだが、ともかく考へをのべてみたいと思ふ。

釈するに於けるのは、非常にもつかし
い、といひのは、記念館には学校
側から度々いわれてゐる様に授
業の延長であるという事と、もう
一つニートンや $(a+b)^2=2ab$
 $2+2ab+b^2$ といふ様な事から
解放され、くついで楽しむ、い
つて見ればお祭りの性格も多分に
含んでゐるもので、この二つの矛
盾した、或は矛盾したかのような
記念祭の性格をいかにさばくかと
いふ事がむづかしいのである。こ
のような場合、残念ながら二つの点

結句記念祭は僕達が楽しむプログラムでなければいけないと思うところがあるが、本當の興味で記念祭を染める意識が深くない。諸君は少ないのじやないかと思う。そりや、非難を聞き、劇を見、シークレットを見たりして諸君はみんな楽しんでたものと思う。しかし、ただそれだけなら感激は薄いものと思う。もし自分が何らかの形で記念祭の為に汗を流し、緑の下の方となつて、そして記念祭を見た場合、その感激はもつと大きいものになる

時半から午後三時半までの間学校で勉強し、夕飯を食べて、お風呂を浴び、夜十時まで一階に二つの仕事をして何か暖いものを感じはしませんでした。これは、今までの生活とは全然違う感じがした。昨日の記念祭の方がゆつくとプログラムを見ていられたし楽しかったように思うが、その感激は今日ではほとんど忘れている。それよりは、今年はゆつくり楽しめた感じが、多くの仲間達と離れられないことも、苦しいことも、思ふ。記念祭を

協力から
——大任

得る暖い心を
を終え静かに眠る

前高校執行委員長
川勝

のんびりしている所へ新潟県から
記念祭について何か書いてくれと

俊典

お祭なのか、どの程度まで授業の延長なのかを、はつきのさせて記念祭にとりかかると、全ての学校側からも生徒からも父兄からも氣持の良いつきりとした記念祭として受け取られる為の記念祭が成功する為の大事なキーポイントとなろう。

以上の事を記念祭になすさわつて見て何よりも強く感じた。

「練習して準備することくに、記念
式当日にも優勝の喜ばがあるのでは
ないかと思う。例えは運動会の応
援のヤグラをつくる場合高三から
下まで一致協力する。あるもの
は資金集めに中一から高三までか
つて出る。そして、高一から高三ま
でが協力してヤグラを組む。そう
して働いている中に何か暖いもの
を感じはしないだろうか。劇の練

校」のことを考え、ああすればもつとよくなつたろうにと思い、それを下級生に伝えたいと思つたろう。その時雖かに君達は一人一人責任と自覚をもつて行動しようとしてゐる。だが残念ながらそれでは遅過ぎる。一週間やそこらの善意ある行動を君の不斷の行動を見ている仲間を素直に受取るだろつか。また君達を真似してそれを野

次と衝突を以て受取らないだろうか？、たとえそうでなくとも君達の行動は他人に自分が出来なかつたことを押しつけるだけの、まるで老人の戯り言のようなものではないか。

大切なことは一時的な線香花火的な感動ではなくて毎日の学校生活を通じての君達一人々々の反省と責任ある行動である。そこから

始めて硬敵的な響意ある批判も生
れてくるだらう。そしてその結果
着達の毎日の学校生活自体が落星
をよりよい学園とするための原動
力となることだらう。その日の一
日も早く来らんことを心から願う
ものである。

(高等学校生徒会顧問)

があいまいなまま記念祭に突入し、
運だめな日々です。いところがあつ
たためた。生徒としては年に一度の記念
祭なのだから、楽しみ騒ぎたいの
が人情だ。一方学校としては
生徒には楽しんでもらいたい、
その為には秩序が乱れるのを恐れる
ところ。この二つのいい分つり
に書いた記念祭の二つの性格に
一致した学校と生徒の見解を一致
させる。カ

と思う。毎日夜の十時まで残つて、動物会の広場のヤケを組んだり、練習をしたり、装飾を作つたり、ラッパや絃を鳴らしたりしてして記念祭の番組に出場し、あるいは磯の力となり又、自衛隊と同じように毎日十時頃まで残つ練習してであらう人々のプログラムを見たすると、本職によつたなあと思つたらう。それに

(奥图、川边记)